

3月28日（日）

神棚のお社（やしろ）を新しくしたのでお祓いをしてほしいと言われ、御霊（みたま）を遷す祭りをしました。新しいお社を祓い清め、古いお社から御霊を遷そうと、御扉を開けました。仲には、御霊代（みたましろ）と呼ばれる神様の名前を書いた木札のようなものがあるか、紙製のお札が入っていることが多いです。古いお社は五社（扉が五つある）さんだったので、御霊代が5つかお札が5枚は入っているものと思っていました。開けてびっくり玉手箱！ 出るは出るは、お札がぎっしり詰まっています。訳の分からぬ竹ひごを束ねたようなものまで。出すのに一苦労、新しいお社に入れるのも一苦労。結局、新しいお社には入れることができず、とりあえずお社の前に並べました。というより積み重ねた、といったほうが正しいかも。そんなこんなで、普通、1分ほどで済むのが、多分5分以上かかったと思います。あらかじめ中を確認しておかなければ、と自己反省しました。

紙製、木製にかかわらず、お札は一年毎に新しくして、古いものは神社に納めるか、正月の「とんど」で燃やします。お札を燃やすなんて、という思いがあるのではないかと思います。しかし、神道は「常若（とこわか）」の思想があり、新しくすることで御神威も甦り増大すると考えています。伊勢神宮などの式年遷宮が、その最たるものです。お札に限らず、神棚のお社や、お社の中の御霊代を何かの機会（家をリフォームした、厄年になった、など）に新しくすることは大事なことです。